

科 目 名	必修／選択	単位数	学 年	学科・類型
世界史 A	必修	2	1	普通科・理数科

科目の概要	国際化が進行している現在、我々の生活は、他地域・他国家との関わりなくして成立しない。みなさんの中にも、将来外国で仕事をする人、あるいは移住して生活する人も出てくると思います。他地域・外国の政治・文化等の違いを正しく理解するためには、その地域・国の歴史を認識しておく必要があります。 また、現在の我々日本人が共有している文化や制度は、日本独自で発展していったものではありません。服装や音楽、食文化だけでなく社会制度の多くが諸外国の影響の元に生まれています。歴史を学ぶことでその本質を知り、現代社会に生きる姿勢を身につけるようにしてください。
-------	---

教材名	教科書	山川出版社 要説世界史A
	副教材	浜島書店アカデミア世界史

学習到達目標	①現在の世界が成立するまでの過程について、大まかな流れを理解させる。また、歴史に興味・関心を持たせた上で、自国以外の文化に対する知識と理解力を身につける。 ②物事の本質を知り、歴史の流れを理解し、現代社会で生きていく上で必要な知恵を身につけ、新しい社会の構成員として生きる力を養う。
--------	---

学習方法	①授業でできた基礎的な歴史用語を一つ以上、授業中にしっかりと身につけるように、授業は真剣に聞く。 ②教材として使用した授業のプリントをノートなどに写し、復習を行う。その後、自分でノートをまとめるなどの発展的な学習を行う。 ③問題集や小問題などを繰り返し使用して基礎・基本を身につける。
------	---

評価の方法 及び 評価基準 と 評価規準 ルーブリック		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料の活用技能	知識・理解
	評価方法	- 課題の提出状況 - 授業に対する姿勢 学習到達目標①	- 定期考査 - 小テスト 学習到達目標②	- 定期考査 - 授業に対する姿勢 学習到達目標②	- 定期考査 - 小テスト 学習到達目標①
	S	歴史や世界に興味を持ち、授業中に学習内容を理解して、その知識を確実に身につけることができる。	歴史的事象からその他の事象や身の回りの事象のつながりを自ら発見し自分の言葉で説明することができる。	資料集の写真・図の特徴やデータの変化に気づき、歴史事項と関連づけることができる。	身につけた歴史的な事項を元に、歴史の流れやつながりを的確に把握することができる。
	A	歴史や世界に興味を持ち、授業中の内容を理解し、その知識をおおまかに身につけることができる。	歴史的事象と身の回りの事象とのつながりに気づいて自分の言葉で説明することができる。	資料集の地図や写真などからその時代や地域の特徴に気づき理解することができる。	歴史的な事項を確実に身につけ、理解することができる。
	B	学力向上に向けて、自ら進んで課題や学習に取り組むことができる。	歴史的事象の背景について正しく理解し、説明することができる。	資料集などを活用し、その地域の変遷や時代の特徴を理解することができる。	歴史の基礎・基本的な事項のほとんどを把握することができる。
	C	学力向上に向けて課題や学習に取り組むことができる。	歴史的事象の背景について理解することができる。	資料集などを活用し、その地域の変遷や特徴をおおまかに理解することができる。	歴史の基礎・基本的な事項をおおまかに把握することができる。

年 間 学 習 計 画

月	章 ・ 単元	学習内容 ・ 目標等	時数	備考 (テスト・講習等)
4	オリエンテーション	・ 世界史の大まかな内容について触れる。	1	
	世界の諸地域	・ 世界の諸地域について触れる	4	
5	序章 古代文明のはじまり	・ 人類の誕生について学習し、その様子を理解する	4	
	第1章 諸地域の世界と交流			
	1. 西アジア世界			
6	①古代のオリエント世界	・ 古代オリエント文明やイスラームについて学習し、の歴史的な特徴を捉える	4	第1回定期試験
	②イスラーム世界		4	
	2. ヨーロッパ世界			第2回定期試験
	①古代の地中海世界	・ 古代ギリシア世界の特徴とアテネ民主政の成立過程やヘレニズム時代について学習し、その特徴を把握する	8	
7	a ギリシア世界			
8	b ローマ世界	・ ローマ共和政・内乱の1世紀、ローマ帝国の成立と滅亡、キリスト教の成立、について学習する	7	
9	②中世ヨーロッパ世界	・ 中世ヨーロッパ世界について学習する	1	
	小計		33	
10	3. 南アジア世界	・ インダス文明とアーリア人の侵入、都市国家の成長と新しい宗教の展開、統一国家の成立、インド古典文化の黄金期について学習する。	5	第3回定期試験
	4. 東アジア世界			
	①中国文明	・ 中国文明の発生、殷と周、春秋戦国時代、秦～唐代などの政治、社会と文化について各時代の特徴を踏まえながら学習する。	4	
11	②東アジア世界の形成		6	
12	第2章 むすびつく世界	・ この時代の変化を把握し、近代や現代への道しるべとなる近世世界を学習する。	4	第4回定期試験
	1. アジア世界の発展		2	
	2. 近世ヨーロッパの形成			
	第3章 ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成	・ 革命の中で芽生えた自由主義が19cのヨーロッパを通じてどのような変遷を辿ったかを理解し、学習する。	6	
1	1. 革命の時代の到来		5	
2	2. 自由主義と国民主義の発展			
	第4章 アジア諸国の変貌	・ 19c 欧米諸国からの進出とそれへの抵抗がどのように行われたかを理解し、学習する。	3	
3	第5章 世界戦争と平和	・ 帝国主義による海外進出の本格化とそれが招いた二つの世界大戦とそれぞれの特徴について理解し、学習する。	2	
	1. 帝国主義とアフリカ分割		3	
	2. 二つの世界大戦と影響			
	小計		40	
	計		73	

科目名		必修／選択	単位数	学 年	学科・類型
現代社会		必修	2	3	普通科・理数科
科目の概要	急激に根本的に変化した国際関係は新たに、そして多くの複雑な課題を私たちに投げかけています。このような時代にあつて21世紀を担う高校生が「現代社会」をいかに学び考えるのか。 どのように社会科学のものの見方と考え方を身につけるのか。豊かな感性を育て、主体的な力を養うか。ここに「現代社会」を学習する意義があるといえるでしょう。				
教科書	高等学校 改訂版 現代社会（第一学習社）				
副教材	最新 政治・経済資料集2016				
学習到達目標	①授業では基本的な事柄を取り上げるとともに、資料集等を活用して大学入試に対応する基礎力を育成する。 ②日頃感じていることを生かしながら、現代社会についての理解を深める。 ③レポートの作成を通じて現代社会の課題について考察する。				
学習方法	①「現代社会」の内容は現代社会で起こっている事柄やそれに関わる歴史的なことです。試験対策として語句を暗記することは必要ですが、理解を深めたり興味関心を高める意味でも新聞を読んで欲しいと思います。 ②資料集をよく読んで欲しい。基本事項のマスターはもちろん大切ですが、理解を深めたり入試対策の上でも大切です。 ③現実の社会へ興味関心を持つことは科目の特性としてとても大切です。入試対策として課題の提出を求めるとありますが、現代社会についての感想や疑問をレポートしてもらいます。授業内容の理解を深めるためにも必ず提出して下さい。				
評価の方法 及び 評価基準 と 評価規準 ルーブリック	評価方法	関心・意欲・態度 ・課題の提出状況 ・授業に対する姿勢 学習到達目標	歴史的思考・表現 ・定期試験 ・課題 ・授業に対する姿勢 ・学習到達目標①②	資料を読み取る技能 ・ワークシート ・授業に対する姿勢 ・定期試験など ・学習到達目標③	知識・理解 ・定期試験 ・課題 ・小テストなど 学習到達目標①
	S	日々変転する現代社会の出来事に興味を持ち、その背景や世界との関連についても自ら進んで学びを深めることができる。	政治についての歴史的な流れを理解しつつ、論理的に考察し、他の人にわかりやすく表現することができる。	図表や資料から現代の政治を読み取り、その内容を正しく記述すると共に発展的な内容を考察し、伝えることができる。	現代社会の情報を整理し、政治用語についても正しく理解し、その知識を用いて自分なりに判断できる。
	A	現代社会の問題に関心を持ち、意欲的に授業に参加することができる。	政治についての論理的に考え、自らの考えを具体的に表現することができる。	図表や資料から事象を読み取り、その内容を正しく記述することができる。	現代用語や知識を歴史を踏まえて正しく理解している。
	B	与えられた課題等に取り組む中で現代社会の出来事に興味を持つことができる。	政治について論理的に考え、自らの考えを表現することができる。	図表や資料から事象を読み取ることができる。	基本的な現代用語や内容を把握している。
	C	現代社会の問題に対する基本用語などを理解できず課題等の取り組みも甘い。	政治についての自らの考えを論理的にまとめることができない。	図表や資料から事象を読み取ることができない。	基本的な現代用語や内容を理解できていない。

年 間 学 習 計 画

月	章 ・ 単元	学習内容・目標等	時数	備考 (テスト・講習等)
4	民主政治の原理・日本国憲法の成立	・政治権力、社会契約論、啓蒙思想、法の支配の原則について学ぶ。	4	
5		・明治憲法と日本国憲法の相違点を知る	5	
6		・日本国憲法の成立過程や三大原理を学ぶ。	5	
7	基本的人権の尊重	・基本的人権について理解を深めるとともに、公共の福祉との関係や新しい人権について判例等から学ぶ。	4	
8			4	
9	国会・内閣・裁判所	・国会や内閣、裁判の仕組みについて学ぶとともに、課題とされている事柄について考える。	4	
10			8	
11			5	
12	地方自治・行政権の拡大・正当	・行政や選挙制度の問題点などを通じて大衆民主主義の問題点を探る。	5	
	・選挙・世論			
1	平和主義・戦後の日本外交	・平和主義や自衛隊をめぐる問題、日本の国際的責任について考察する	4	
2			4	
3	国際政治	・国際社会における主権とは何か。また民族問題や領土問題の根底にあることを探る。	4	
		・国際連合や平和共存、現代の国際社会について学ぶ。		
	環境問題	・地球の温暖化や酸性雨などの環境問題と人間の生活とを関連させて追究する。		
	労働問題	・労働三権と労働三法について学ぶ。		
		・雇用事情の変化や今後の課題について学習する。		
	社会保障	・社会保障の歴史的な歩みを学ぶ。		

科目名	必修／選択	単位数	学 年	学科・類型
地理 A	必修	2	2	普通科理型・理数科

科目の概要	地理は、地球上の全てに関わる事柄を扱います。これまでに学習した中学校までの社会科、そして昨年度学習した現代社会や世界史の知識も活用し、「ミクロ」と「マクロ」の視点を常にもって学習に臨みましょう。				
	2年次では項目別に世界を学ぶこと、いわゆる系統地理を中心に行います。気候や地形などの自然環境などを学びながら世界を眺めていきます。そのため、地理の授業では教科書だけではなく、地図帳や資料集、統計を頻繁に使用しますので、早く使いこなせるようにしましょう。また、地理の学習では「地理的な見方・考え方」を養っていきますが、それは、知識を身に付けるだけではなく、その知識を活用して考えることが必要です。図表や写真などから発せられるメッセージを常に感じ取り、感性を養いましょう。				
教材名	教科書	高等学校新地理A（帝国書院）			
	副教材	新編地理資料2015（とうほう），地理統計2015（二宮書店），新詳高等地図（帝国書院）			
学習到達目標	① 現代世界の地理的な諸課題を地域性を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養う。 ② 地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。 ③ センター試験レベルの学力を身に付ける。				
学習方法	① 初めて聞いた国名や地名、重要事項、統計データは必ず確認してペン等でチェックし、何度でも見返す習慣をつけること。 ② ただ語句を暗記するだけではなく、グラフや統計などから内容を理解し、様々な知識の「点」を「線」とし、「面」へと広げましょう。それが「地理的な見方・考え方」となります。 ③ 今まで学習してきた社会科の知識をフルに活用しましょう。そして、日頃から社会の出来事や自然現象などに関心を持ち、テレビのニュースや新聞に目を通す習慣を付けられると、一層効果的です。また、教科書や副教材も積極的に使用しましょう。 ④ 課題等で地理的な技能を身に付けたり、学習の定着を図ります。課題提出状況や内容も評価の対象ですので、しっかりと取り組みましょう。				
評価の方法 及び 評価基準 と 評価標準 ルーブリック	評価方法	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
		・授業に対する姿勢 ・課題の提出状況など 学習到達目標③	・定期考査 ・小テスト、課題 ・授業に対する姿勢など 学習到達目標①②	・定期考査 ・ワークシート ・授業に対する姿勢 など 学習到達目標②	・定期考査 ・小テスト、課題 など 学習到達目標①②
	S	日頃から現代世界の地理的な諸課題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追求することができる。	地理的な見方・考え方をしながら論理的に考察し、他の人に分かりやすく表現することが出来る。	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集して有用な情報を選択し、発展的な内容を考察して読み取ったり、正しく伝えることが出来る。	系統地理の事柄を理解し、その知識を関連づけて正しく身に付けている。
	A	現代世界の地理的な諸課題に対する関心と課題意識を強く持ち、意欲的に授業に参加することが出来る。	地理的な見方・考え方を身に付け、論理的に考察し、自らの考えを表現することが出来る。	地図や統計、画像など地域に関する諸資料から有用な情報を選択し、読み取ったり、正しく伝えることが出来る。	系統地理の基本的な事柄を理解し、その知識を関連づけて正しく身に付けている。
	B	与えられた課題等に取り組む中で現代世界の地理的な諸課題に対する関心を持つことができる。	地理的な見方・考え方を身に付け、論理的に考察することが出来る。	地図や統計、画像など地域に関する諸資料から有用な情報を選択し、読み取ることが出来る。	系統地理の基本的な事柄の内容を身に付けている。
	C	現代世界の地理的な諸課題が認識出来ず、取り組みも甘い。	地理的な見方・考え方に基づいて論理的にまとめることが出来ない。	地図や統計、画像など地域に関する諸資料から有用な情報を選択し、読み取ることが出来ない。	系統地理の基本的な事柄の内容を身に付けていない。

科目名 [地理A]

年 間 学 習 計 画

月	章 ・ 単元	学習内容 ・ 目標等	時数	備 考		
4	◎オリエンテーション	・ 地図投影法 ・ 時差 ・ 統計地図 ・ 陸水と海洋 ・ 世界と日本の水産業 ・ 地形図 ・ 大地形とエネルギー資源 ・ 小地形 ・ その他の地形 ・ 気候要素と気候因子	1	第1回定期考査 (夏休み課題) 第2回定期考査		
5	◎地理情報と地図		1 2			
6	◎自然環境		2 1			
7						
8						
9						
10	◎国家と国家群		・ 気候区分 ・ 農牧業（企業的農牧業・プランテーション） ・ 林産資源		1 2	第3回定期試験 (冬休み課題)
11						
12						
1		・ 国家の領域と国境 ・ 国家間の結びつき				
2	◎人種・民族・宗教	・ 人種と人種問題 ・ 民族問題 ・ 言語と宗教	1 2	第4回定期試験 (春休み課題)		
3						

科目名 [地理A]

科目名	必修／選択	単位数	学 年	学科・類型
日本史 A	必修	2	2	普通科 文型

科目の概要	日本史 A では、日本の近現代史を中心に、「世界の中の日本」という視点で、世界の歴史との関連を大切にしながら学んでいきます。現代の社会や諸課題は歴史的に形成されたものが多く存在します。それ故に、近現代の歴史的事象をどう考えるか、どう捉えるかという力をまず付けてください。その上で、現在生じている諸課題について、問題の本質やその解決手段について考える力を身につけてください。授業はペリーの来航による混乱と開国という、幕末からになります。小・中学校で学んだことをベースにしながら更に専門的な知識や歴史的思考力を身につけましょう。
-------	--

教材名	教科書	改訂版 日本史 A (山川出版社)
	副教材	新詳 日本史 (浜島書店)・ゼミナール日本史 (浜島書店)・史料による日本史 (山川出版社)

学習到達目標	①基礎・基本の知識の習得をはかり、近現代史の日本の成立について、国内的要因及び国外的な要因と関連づけて認識できるようにする。 ②近現代史の歴史的事象の因果関係を正確に把握し、表現することをできるようにする。 ③資料や史料から近現代日本の特徴を読み取ることをできるようにする。 ④センター試験を始め、大学入試に向けた実力を身につける。
--------	---

学習方法	①復習と日々の授業時間を大切にしてください。教科書の太字だけを覚えるのではなく、教科書を読み込んでください。そうすることで歴史の因果関係や政治・経済・外交のつながりを把握できるようになります。歴史的な事件や出来事に関する「なぜ」「どうして」「どのよう」に「その結果どうなったか」などの疑問を大切にしてください。 ②板書・プリントだけではなく、資料集・史料集を積極的に活用し、まとめるなどの作業をしましょう。重要語句だけではイメージできないことがたくさんあります。 ③まとめの学習の一環として「ゼミナール日本史」を活用してください(考查ごとに集めます)。 ④日常の提出物を必ず出しましょう。評価だけではなく、力の付き方が変わってきます。
------	--

評価の方法 及び 評価基準 と 評価規準 ルーブリック		関心・意欲・態度	歴史的思考・表現	資料を読み取る技能	知識・理解
	評価方法	・課題の提出状況 ・授業に対する姿勢 など 学習到達目標④	・定期試験 ・課題 ・授業に対する姿勢など 学習到達目標①、②	・ワークシート ・授業に対する姿勢 ・定期試験 など 学習到達目標③	・定期試験 ・課題 ・小テストなど 学習到達目標①
	S	日頃から歴史的視点から物事を考えることができ、自ら進んで学びを深めることができる。	歴史的な思考をしながら論理的に考察し、他の人にわかりやすく表現することができる。	史料や資料から歴史的背景や状況を読み取り、その内容を正しく記述すると共に発展的な内容を考察し、伝えることができる。	歴史用語について、その時代背景や歴史的意義について正しく理解している。
	A	歴史的に物事を考えることに強い関心を持ち、意欲的に授業に参加することができる。	歴史的思考を身に付け、論理的に考察し、自らの考えを表現することができる。	史料や資料から歴史的背景や状況を読み取り、その内容を正しく記述することができる。	基本的な歴史用語について、その時代背景や歴史的意義について理解している。
	B	与えられた課題等に取り組む中で歴史的な思考に関心をもつことができる。	歴史的思考を身に付け、論理的に考察することができる。	史料や資料から歴史的背景や状況を読み取ることができる。	基本的な歴史用語の内容を把握している。
	C	歴史的・論理的思考の重要性が認識できず、課題等の取り組みも甘い	自らの考えを歴史的思考に基づいて論理的にまとめることができない。	史料や資料から歴史的背景や状況を読み取ることができない。	基本的な歴史用語の内容を理解できていない。

科目名 [文型 日本史A]

月	章 ・ 単元	学習内容 ・ 目標等	時数	備考(テスト・講習等)
4	第1章 近代への胎動	1. 日本を取りまく世界の変容	1	
	第2章 開国と明治維新	1. アジアの激動と日本の開国	4	小テスト
		2. 江戸幕府の滅亡	4	ワークシート
5		3. 明治維新	3	記述課題
		4. 富国強兵	4	マインドマップ
		5. 初期外交	2	
	第3章 立憲国家の成立	6. 殖産興業と文明開化	4	
		1. 自由民権運動	5	
6				第1回定期考査
7		2. 立憲製の成立	5	小テスト
		3. 立憲政治の展開	2	ワークシート
		4. 日清・日露戦争	9	記述課題
		5. 産業革命と社会の変容	6	マインドマップ
8	第4章 第一次世界大戦と日本	6. 明治の文化	4	
		1. 政党政治の展開	6	
9		2. 第一次世界大戦とワシントン体制	4	
		3. 経済・社会の変容	3	
				第2回定期考査

科 目 名	必修／選択	単位数	学 年	学科・類型
政治経済	必修	2	2	文型

科目の概要	経済の語源は「経世済民」である。これは中国の故事で「世をおさめ、民を救う」という意味である。つまり、政治だけではなく経済も人と人をつなぐはたらきをしている。経済思想や市場原理、国際収支、グローバル化する現代社会について理解を深める。経済は、自分たちの生活に密着している科目である。新聞やテレビのニュースを見たり聞いたりする中で、自分の意見を持ったり、疑問を持ったりすることが学びを深化させる。こんにちでは、情報化の進展にあわせて、モノ・人・資本が国境を越えて激しく移動し、国際社会は経済的にもかつてみられないほど相互作用を持つ時代になった。政治・経済は大学へ進学し社会に出て世の中を理解するベースになる。現代の激動する社会を生きていく上で経済にどう関わっていくのか。今年1年、社会に出て行く基礎・基本を学ぶという気持ちで授業を受け、新聞・テレビのニュースを批判できるぐらいの力を身につけてほしい。				
	教材名	教科書	高等学校 新政治・経済 改訂版（清水書院）		
	副教材	最新政治・経済資料集 2015（第一学習社）			
学習到達目標	1、現代の日本の経済や国際経済についての基本的なしくみや働きを習得する。 2、経済の基本的原理を身につけ、具体的な諸問題について、自ら考えることができる。				
学習方法	1、教科書に出てくる基本的語句の確認 2、新聞やニュースなど身近な問題に興味や関心を持つようにする。 3、現代社会の諸問題について、調べたり考えたりする習慣をつける。				
評価の方法 及び 評価基準 と 評価規準 ルーブリック	評価方法	関心・意欲・態度	政治経済的思考・表現	資料を読み取る技能	知識・理解
		・課題の提出状況 ・授業に対する姿勢 学習到達目標④	・定期試験 ・課題 ・授業に対する姿勢 学習到達目標①②	・ワークシート ・授業に対する姿勢 ・定期試験など 学習到達目標③	・定期試験 ・課題 ・小テストなど 学習到達目標①
	S	日頃から時事問題に興味を持ち、多角的に物事を考えることができ自ら進んで学びを深めることができる。	経済的な思考をしながら論理的に考察し、他の人にわかりやすく表現することができる。	図表や資料から経済的背景や状況を読み取り、その内容を正しく記述すると共に発展的な内容を考察し、伝えることができる。	経済的用語について、その時代背景や歴史的意義について正しく理解している。
	A	時事的な問題に関心を持ち、意欲的に授業に参加することができる。	経済的な思考を身につけ論理的に思考し、自らの考えを表現することができる。	図表や資料から歴史的背景や状況を読み取り、その内容を正しく記述することができる。	基本的な経済用語について、その時代背景や歴史的意義について理解している。
	B	与えられた課題等に取り組む中で歴史的な思考に関心を持つことができる。	経済的な思考を身につけ論理的に考察することができる。	図表や資料から歴史的背景や状況を読み取ることができる。	基本的な経済用語の内容を把握している。
	C	時事問題に対する基本用語などを理解できず課題等の取り組みも甘い。	自らの考えを経済的思考に基づいて論理的にまとめることができない。	図表や資料から歴史的背景や状況を読み取ることができない。	基本的な経済用語の内容を理解できていない。

月	章 ・ 単元	学習内容 ・ 目標等	時数	備考 (テスト・講習等)
4	第3章 現代日本の諸課題 第1章 現代の経済 ① 1 人間と経済	経済とは何か 経済の歴史について	3 1	
5	② 経済社会の変容と経済思想 世界恐慌とケインズ 社会主義経済の成立と崩壊 第2章 現代経済のしくみ ① 三つの経済主体 ② 市場の機能と限界 ③ 寡占市場と価格	景気変動が国民生活に及ぼす影響について考察する。	1 1 1 1 2 1	
6	5 政府の経済的役割 ① 財政の機能 ② 国債 6 資金の循環と金融機関のはたらき ① 金融市場と金利	財政と国債の問題点について把握する	1 1 2 1 1	第1回定期考査
7	① 日銀の金融政策 ② 金融の新しい動向			
8	第3章 現代の日本経済と福祉の向上 ① 日本経済の発展と産業構造の変化 ② 石油危機以降の日本経済	石油危機の与えた影響とその後の経済発展について学ぶ。	1 2	
9	③ バブル経済と平成不況 3 労働者の権利と労働問題 ① 労働者の権利と労働三法 ② 労働市場の変化と労働組合 ③ 国際化と労働力移動	労働者の権利の変遷と労働実態について考察する。 景気変動が国民生活に及ぼす影響について考察する。	1 1 1 2	第2回定期考査
10	4 社会保障と社会福祉 ① 我が国の社会保障制度 ② 社会保障制度の問題点		1 1 2 1	
11	1 経済のあり方と国民生活 第4章 現代の国際経済 ① 貿易の意義と国際収支 ② 国際収支の構造と国際貿易 ③ 為替相場のしくみ	戦後復興、高度経済成長、石油危機、バブル経済などの事象を通して、戦後日本経済のあゆみについて理解する。 国際収支の基礎的構造を理解する。 自由貿易の意義について考える。	1 1 1	
12	3 国際経済のあゆみと経済機関 ① GATTからWTOへ 4 リージョナリズムの進展 ③ 現代の世界経済と日本	国際収支の基礎的構造を理解する。 自由貿易の意義について考える。	1 1 1	第3回定期考査

年 間 学 習 計 画

月	章・単元	学習内容・目標等	時数	備考（テスト・講習等）
1	グローバル経済下の貧困	TPP の問題を取り上げながら、自由貿易について考える	1 2 1	
2	第3編 選択学習 現代政治・経済の諸問題	第1編・第2編の内容より不十分な理解がみられるところの復習	1 2 2 2	第4回定期考査
3	経済について	新聞記事を読み、グループ討論や小論文演習を行う	1 2 2	

科目名	必修／選択	単位数	学 年	学科・類型
世界史B	選択	2	2	普通科・文型

科目の概要	中世世界は、現代世界の地域や国々の民族構成がほぼ固まっていた時期でもある。各地域の中世世界を基礎・基本からしっかりと学び、その民族構成や現代世界の国々がどのように成り立っていたかを知り、理解する。それによって、この時代に発展した東アジア、西アジア、ヨーロッパなどそれぞれの地域の民族構成、宗教や習慣の成り立ち、そして、その地域の当時の人々の考え方を歴史的な流れの中で捉える思考力を培う。 また、これまでに学習した内容などについて基礎的な学力を定着させるとともに、三学年で主に学習する近現代の歴史を学ぶ知識的な土台を形成する。
-------	--

教材名	教科書	山川出版社 詳説世界史B
	副教材	浜島書店アカデミア世界史 詳説世界史スタンダードテスト

学習到達目標	①現在の世界が成立するまでの過程について、大まかな流れを理解させる。また、歴史に興味関心を持たせた上で、自国以外の文化に対する知識と理解力を身につける。 ②物事の本質を知り、歴史の流れを理解し、現代社会で生きていく上で必要な知恵を身につけ、新しい社会の構成員として生きる力を養う。
--------	--

学習方法	①授業でできた基礎的な歴史用語を一つ以上、授業中にしっかりと身につけるように、授業は真剣に聞く。 ②教材として使用した授業のプリントをノートなどに写し、復習を行う。その後、自分でノートをまとめるなどの発展的な学習を行う。 ③問題集や小問題などを繰り返し使用して基礎・基本を身につける。
------	---

評価の方法 及び 評価基準 と 評価規準 ルーブリック		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料の活用技能	知識・理解
	評価方法	・課題の提出状況 ・授業に対する姿勢 学習到達目標①	・定期考査 ・小テスト 学習到達目標②	・定期考査 ・授業に対する姿勢 学習到達目標②	・定期考査 ・小テスト 学習到達目標①
	S	中世世界に興味を持ち、授業中に学習内容を理解して、その知識を確実に身につけることができる。	歴史的事象から古代や現代、その他の地域とのつながりなどを自ら発見し自分の言葉で説明することができる。	資料集の写真・図の特徴やデータの変化に気づき、歴史事項と関連づけることができる。	身につけた歴史的な事項を元に、歴史の流れやつながりを的確に把握することができる。
	A	中世世界に興味を持ち、授業中の内容を理解し、その知識をおおまかに身につけることができる。	歴史的事象とその他の歴史的事象とのつながりに気づき自分の言葉で説明することができる。	資料集の地図や写真などからその時代や地域の特徴に気づき理解することができる。	歴史的な事項を確実に身につけ、理解することができる。
	B	学力向上に向けて、自ら進んで課題や学習に取り組むことができる。	歴史的事象とその他の事項とのつながりに気づき説明することができる。	資料集などを活用し、その地域の変遷や時代の特徴を理解することができる。	歴史の基礎・基本的な事項をほとんど把握することができる。
	C	学力向上に向けて意欲を持って課題や学習に取り組むことができる。	歴史的事象とその他の事項とのつながりに気づくことができる。	資料集などを活用し、その地域の変遷や特徴をおおまかに理解することができる。	歴史の基礎・基本的な事項をおおまかに把握することができる。

年間学習計画

月	章・单元	学習内容・目標等	時数	備考(テスト・講習等)
10	オリエンテーション	・授業の受け方などについて触れる。	1	
	第3章 東アジア世界の形成と発展			
	3. 東アジア諸地域の自立化			
	①北方の諸勢力と宋の政治	・北方の諸勢力、宋の統治、宋代の社会や宋代の文化などの流れとその特徴について学習する。	4	
	③宋代の社会と文化		4	
	第4章 内陸アジア世界の変遷			
	1. 遊牧民とオアシス民の活動	・遊牧民の活動、トルコ化とイスラーム化の進展について学習する。	3	
11	2. モンゴル民族の発展			
	①モンゴル帝国の形成	・モンゴルの大帝国、元の東アジア支配、モンゴル時代のユーラシア、モンゴル帝国の解体について学習する	5	
	②元朝の支配と崩壊		5	
	第5章 イスラーム世界の形成と発展			
	1. イスラーム帝国の成立	・イスラームの誕生、イスラーム世界の成立、その分裂について学習する。	4	第3回定期試験
	①イスラーム教の誕生発展			
12	2. イスラーム世界の拡大	・エジプトのイスラーム政権、西方イスラーム世界の変容やイスラーム世界の東方への拡大について学習する。	4	
	①エジプト・北アフリカのイスラーム化		5	
	②インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化			
	3. イスラーム文明の発展	・イスラーム文明の特徴、社会と文明、学問と文化活動について学習する。	5	
	第6章 ヨーロッパ世界の形成と発展			
1	1. 西ヨーロッパ世界の成立	・ゲルマン人の大移動、フランク王国の発展と第二次民族移動、封建社会の成立、十字軍について学習し、西ヨーロッパの民族構成について考える。	4	
	①ゲルマン民族の大移動		4	
	②フランク王国の発展		4	
	③第二次民族移動と十字軍		4	
2	2. 西ヨーロッパ中世世界の変容	・都市の復活、各国の中世史、封建社会の衰退・教会勢力の衰退について学習する。	2	
	①都市の復活		6	
	②西ヨーロッパの変容と崩壊			
	3. 東ヨーロッパ世界の成立	・ビザンツ帝国の繁栄と衰亡、スラヴ人と周辺諸民族の自立について学習する。	2	
	4. 西ヨーロッパ中世文化	・中世ルネッサンスと神学の発展、美術と文学について学習する	3	第4回定期試験
	第7章 アジア諸地域の繁栄			
3	1. 東アジア・東南アジア世界の動向	・明と清代の辺諸国の情勢、その時代の文化の特徴について学習する。	2	
	2. 清代の中国と隣接諸地域	・ティムール、オスマン帝国、サファヴィー朝、ムガル帝国など近世イスラーム世界の特徴について学習する。	2	
	3. トルコ・イラン世界、ムガル帝国の展開		2	
	第8章 近代ヨーロッパの成立			
	1. ルネッサンス	・中世からの脱皮を文化活動の点から考察し、それがどのようにヨーロッパ世界に波及したかを考える。	2	
	2. 大航海時代		3	
合計			76	

科目名	必修／選択	単位数	学 年	学科・類型
日本史B	必修	2	2	普通科 文型

科目の概要	日本史Bでは前期の日本史Aの内容を受けて授業を展開します。そのため「世界の中の日本」という視点で、世界の歴史との関連を大切にしながら学ぶのは日本史Aと同様です。また、現代の社会や諸課題は歴史的に形成されたものが多く存在するため、近現代の歴史的事象をどう捉え考えるかという力をまず付けてください。その上で、現在生じている諸課題について、問題の本質やその解決手段について考える力を身につけてください。現代史が終わったら、教科書の最初に戻り、原始時代から学習を行います。
-------	--

教材名	教科書	詳説 日本史B (山川出版社)
	副教材	新詳 日本史 (浜島書店)・ゼミナール日本史 (浜島書店)・史料による日本史 (山川出版社)

学習到達目標	①基礎・基本の知識の習得をはかり、近現代史の日本の成立について、国内的要因及び国外的な要因と関連づけて認識できるようにする。 ②近現代史の歴史的事象の因果関係を正確に把握し、表現することをできるようにする。 ③資料や史料から近現代日本の特徴を読み取ることをできるようにする。 ④センター試験を始め、大学入試に向けた実力を身につける。
--------	--

学習方法	①復習を重視してください。また、1時間1時間の授業を大切にしてください。教科書の太字だけを覚えるのではなく、教科書を読み込んでください。そうすることで歴史の因果関係や政治・経済・外交のつながりを把握できるようになります。歴史的な事件や出来事に関係する「なぜ」「どうして」「どのように」「その結果どうなったか」などの疑問を大切にしてください。 ②板書・プリントだけではなく、資料集・史料集を積極的に活用し、まとめるなどの作業をしましょう。重要語句だけではイメージできないことがたくさんあります。 ③まとめの学習の一環として「ゼミナール日本史」を活用してください(考査ごとに集めます)。 ④日常の提出物を必ず出しましょう。評価だけではなく、力の付き方が変わってきます。
------	--

評価の方法 及び 評価基準 と 評価規準 ルーブリック		関心・意欲・態度	歴史的思考・表現	資料を読み取る技能	知識・理解
	評価方法	・課題の提出状況 ・授業に対する姿勢 など 学習到達目標④	・定期試験 ・課題 ・授業に対する姿勢など 学習到達目標①、②	・ワークシート ・授業に対する姿勢 ・定期試験 など 学習到達目標③	・定期試験 ・課題 ・小テストなど 学習到達目標①
	S	日頃から歴史的視点から物事を考えることができ、自ら進んで学びを深めることができる。	歴史的な思考をしながら論理的に考察し、他の人にわかりやすく表現することができる。	史料や資料から歴史的背景や状況を読み取り、その内容を正しく記述すると共に発展的な内容を考察し、伝えることができる。	歴史用語について、その時代背景や歴史的意義について正しく理解している。
	A	歴史的に物事を考えることに強い関心を持ち、意欲的に授業に参加することができる。	歴史的思考を身に付け、論理的に考察し、自らの考えを表現することができる。	史料や資料から歴史的背景や状況を読み取り、その内容を正しく記述することができる。	基本的な歴史用語について、その時代背景や歴史的意義について理解している。
	B	与えられた課題等に取り組む中で歴史的な思考に関心をもつことができる。	歴史的思考を身に付け、論理的に考察することができる。	史料や資料から歴史的背景や状況を読み取ることができる。	基本的な歴史用語の内容を把握している。
	C	歴史的・論理的思考の重要性が認識できず、課題等の取り組みも甘い	自らの考えを歴史的思考に基づいて論理的にまとめることができない。	史料や資料から歴史的背景や状況を読み取ることができない。	基本的な歴史用語の内容を理解できていない。

年間学習計画

科目名 [文型 日本B]

月	章 ・ 単元	学習内容 ・ 目標等	時数	備考 (テスト・講習等)
10	第10章 二つの世界大戦とアジア	4 恐慌の時代 5 軍部の台頭	4 5	小テスト ワークシート
11	第11章 占領下の日本	6 第二次世界大戦 1 占領と改革	9 5	記述課題 マインドマップ 第3回定期考査
12	第12章 高度成長の時代	2 冷戦の開始と講和 1 55年体制	3 3	小テスト ワークシート
	第13章 激動する世界と日本	2 経済復興から高度成長へ 1 経済大国への道	4 4	記述課題 マインドマップ
1	第1章 日本文化のあけぼの	2 冷戦の終結と日本社会の動揺 1 文化の始まり	2 3	
2		2 農耕社会の成立 3 古墳とヤマト政権	7 6	第4回定期考査
3	第2章 律令国家の形成	1 飛鳥の朝廷 2 律令国家への道	5 6	

科目名	必修／選択	単位数	学 年	学科・類型
世界史B	選択	2	3	普通科・文型

科目の概要	中世までの歴史と比較した場合、近代以降の世界史は、科学技術の発達による「世界の一体化」などを背景に、様々な国や地域や民族が複雑に絡み合いながら歴史が展開しており、自学自習のみで理解しようとするのはかなり難しくなる。歴史に登場する地域は明らかにそれ以前より増え、史料も豊富なため内容も細かくなる。本授業では、こうした近代史を授業で行い、歴史の流れを把握することをポイントにおき、授業を進める。 授業では地域に的を絞った縦の流れと、時代に的を絞った横の関係をふまえながら、アメリカ独立・フランス革命といった近代市民社会の成立や帝国主義の時代を学び、現在の世界で起こっている諸問題を解決する糸口を発見する授業を展開していく。
-------	---

教材名	教科書	山川出版社 詳説世界史B
	副教材	浜島書店アカデミア世界史 詳説世界史スタンダードテスト

学習到達目標	①現在の世界が成立するまでの過程について、大まかな流れを理解させる。また、歴史に興味関心を持たせた上で、自国以外の文化に対する知識と理解力を身につける。 ②物事の本質を知り、歴史の流れを理解し、現代社会で生きていく上で必要な知恵を身につけ、新しい社会の構成員として生きる力を養う。
--------	--

学習方法	①授業でできた基礎的な歴史用語を一つ以上、授業中にしっかりと身につけるように、授業は真剣に聞く。 ②教材として使用した授業のプリントをノートなどに写し、復習を行う。その後、自分でノートをまとめるなどの発展的な学習を行う。 ③問題集や小問題などを繰り返し使用して基礎・基本を身につける。
------	---

評価の方法 及び 評価基準 と 評価規準 ルーブリック		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料の活用技能	知識・理解
	評価方法	- 課題の提出状況 - 授業に対する姿勢 学習到達目標①	- 定期考査 - 小テスト 学習到達目標②	- 定期考査 - 授業に対する姿勢 学習到達目標②	- 定期考査 - 小テスト 学習到達目標①
	S	積極的に授業に参加し、学習内容を理解して、その知識を身につけることができる。	歴史的事象から現代とのつながりなどを自ら発見し自分の言葉で説明することができる。	資料集の図の特徴やデータの変化に気づき、歴史事項と関連づけることができる。	身につけた歴史的な事項を元に、歴史的な流れを把握することができる。
	A	授業に参加し、授業中の学習内容を理解し、その知識を身につけることができる。	歴史的事象とその他の事項とのつながりに気づき自分の言葉で説明することができる。	資料集の地図や写真などからその時代の特徴に気づき理解することができる。	歴史的な事項を確実に身につけ、理解することができる。
	B	学力向上に向けて、自ら進んで課題や学習に取り組むことができる。	歴史的事象とその他の事項とのつながりに気づき説明することができる。	資料集などを活用し、その地域の変遷や時代の特徴を理解することができる。	歴史の基礎・基本的な事項をほとんど把握することができる。
	C	学力向上に向けて意欲を持って課題や学習に取り組むことができる。	歴史的事象とその他の事項とのつながりに気づくことができる。	資料集などを活用し、その地域の変遷や特徴をおおまかに理解することができる。	歴史の基礎・基本的な事項をおおまかに把握することができる。

年 間 学 習 計 画

月	章 ・ 単元	学習内容 ・ 目標等	時数	備考 (テスト・講習等)
4	オリエンテーション			
	1 近代ヨーロッパの成立			
	①ルネッサンス、大航海時代 宗教改革	・ 三つの転換する歴史事項や主権国家体制について正しい流れを理解し、その影響や意義について考える	4	
	②主権国家体制の成立		4	
	③宗教戦争とその意義		3	
5	2 欧米における国民国家の形成			
	①イギリス市民革命とその意義	・ 市民革命の意義を考えるとともに、ヨーロッパの他の地域の専制君主の特徴について正しく捉える	4	
	②17・18世紀の専制君主		3	
	③ヨーロッパ諸国の対外進出	・ 大西洋三角貿易の成立過程を理解し、現代とのつながりについて考える	4	
	④17・18世紀のヨーロッパ文化	・ 大西洋三角貿易の成立過程を理解し、現代とのつながりについて考える ・ 17c から 18c の哲学や芸術の特徴と自然科学の発達について学ぶ	5	
6	3 欧米における近代社会の成長			
	①産業革命	・ 産業革命やアメリカ独立革命の要因、特徴とその影響を正しく理解し、歴史的な意義を知る。	4	
	②アメリカ独立革命		4	
				第1回定期試験
		小計	35	
7	③フランス革命	・ ナポレオン戦争までの革命の時期による特徴やその変化を理解し、学ぶ	7	
8	4 欧米における近代国民国家の発展			
	①自由のための戦い	・ ウィーン体制とフランスにおける七月革命や二月革命の余波で 生まれた各国の状況について知る	4	
	②自由主義・国民主義の進展		4	
	③アメリカ合衆国の発展	・ 19c におけるイギリスや南北戦争など欧米諸国の再編について、その過程や 19c の国際状況 について学習する	3	
	④ロシアの南下政策と東方問題		4	
9	5 アジア地域の動揺			
	①オスマン帝国支配の動揺	・ エジプト・オスマン帝国・イランやムガル帝国の動向と欧米各国の進出について学ぶ。	4	
	②南アジア・東南アジアの植民地化		3	
	③東アジアの激動	・ アヘン戦争から辛亥革命、日韓併合の流れを捉え、その過程で起こった出来事の原因を捉える	4	
	④19世紀のヨーロッパ文化	・ ロマン主義から自然主義について時代背景とともにその特徴を知る	3	
				第2回定期試験
		小計	36	
		合計	71	

科 目 名	必修／選択	単位数	学 年	学科・類型
世界史研究	選択	2	3	普通科・文型

科目の概要	帝国主義時代以降の世界史は、現在の社会が抱えている諸問題の始まりといえる。この時代のヨーロッパ列強の動き、それに対してアジア、アフリカ諸国がどのような民族運動が起こり、独立していったかは現在の国家形成を考える際に不可欠である。そして、政治的な点ではなく、経済的な点からも帝国主義時代以降の歴史を理解し、経済的な問題が政治的なことにも影響を大きく与えることを理解し、現在の世界、国際社会が形成されていく様子を把握することで、現在起こっている諸問題を解決する糸口を見つけていくことが国際社会に生きる能力が現代人に必要である。この授業を通して歴史的思考力を培い、現代の世界を見る視点を育成していく。 授業では地域に的を絞った縦の流れと、時代に的を絞った横の関係をふまえながら、東西冷戦や第二次世界大戦後の各地域の様子を把握していく授業を展開していく。
-------	--

教材名	教科書	
	副教材	浜島書店アカデミア世界史 詳説世界史スタンダードテスト ※その他、世界史Bの教科書なども、適宜活用します。

学習到達目標	①現在の世界が成立するまでの過程について、大まかな流れを理解し、把握する。また、問題演習などを通して歴史の基礎基本的な知識を定着させる。 ②物事の本質を知り、歴史の流れを理解し、現代社会で生きていく上で必要な知恵を身に付け、新しい社会の構成員として生きる力を養う。
--------	--

学習方法	①授業でできた基礎的な歴史用語を一つ以上、授業中にしっかりと身につけるように、授業は真剣に聞く。 ②教材として使用した授業のプリントをノートなどに写し、復習を行う。その後、自分でノートをまとめるなどの発展的な学習を行う。 ③問題集や小問題などを繰り返し使用して基礎・基本を身につける。
------	---

評価の方法 及び 評価基準 と 評価規準 ルーブリック		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料の活用技能	知識・理解
	評価方法	・課題の提出状況 ・授業に対する姿勢 学習到達目標①	・定期考査 ・小テスト 学習到達目標②	・定期考査 ・授業に対する姿勢 学習到達目標②	・定期考査 ・小テスト 学習到達目標③
	S	授業中に学習内容を理解し、さらに深い知識を身につけることができる。	歴史的事象から現代とのつながりなどを自ら発見し自分の言葉で説明し、発表することができる。	資料集の図の特徴やデータの変化に気づき、現代世界と関連づけ、自分でまとめることができる。	歴史的な事項を元にさらに深い知識やその背景を把握し、身につけることができる。
	A	授業中の学習内容を理解し、さらに深い知識を身につけようとすることができる。	歴史的事象とその他の事項とのつながりに気づき自分の言葉で説明し、発表することができる。	資料集の地図や写真などからその時代の特徴と現代世界との関連に気づき理解することができる。	歴史的な事項や現代世界の知識を確実に身につけ、理解することができる。
	B	学力向上に向けて、自ら進んで課題や学習に取り組むことができる。	歴史的事象とその他の事項とのつながりに気づき説明することができる。	資料集などを活用し、その地域の変遷や時代の特徴を理解することができる。	歴史の基礎・基本的な事項をほとんど把握することができる。
	C	学力向上に向けて意欲を持って課題や学習に取り組むことができる。	歴史的事象とその他の事項とのつながりに気づくことができる。	資料集などを活用し、その地域の変遷や特徴をおおまかに理解することができる。	歴史の基礎・基本的な事項をおおまかに把握することができる。

年 間 学 習 計 画

月	章 ・ 単元	学習内容 ・ 目標等	時数	備考 (テスト・講習等)
10	1 現代世界の諸問題 ①現代世界の諸問題について考える	・ 現代世界で起こっている様々な諸問題について理解し、その原因が帝国主義時代以降の歴史と関係があることを認識し、その探究する態度を身に付ける。	5	
	2 南北問題とその原因を探る ①南北問題とその原因とは	・ 南北問題を考える上で重要な 18c までの植民地獲得競争と帝国主義についてその特徴を理解する。	5	
	②現代世界の諸問題と帝国主義を考える	・ 帝国主義によってアジア、アフリカ地域がどのような状況になり、現代世界にどのような影響を与えているか理解し、自分の考えをまとめる。	5	
	3 パレスティナ問題の原因と国際平和			
11	①パレスティナ問題の原因と第一次世界大戦について考える	・ パレスティナ問題の原因と第 1 次世界大戦とその後、ヨーロッパはどのように平和を築いていったのかを理解し、平和のあり方について探求する。	5	
	②戦間期におけるアジアの独立運動と現代アジア世界のつながり	・ 戦間期におけるアジアはどのような動きをしていったか。また、それが現在のアジア世界に与えた影響を考察し、現代アジア世界とのつながりを考える。	5	
	③世界恐慌とその影響、平和について考える	・ 世界恐慌、それに続くファシズムの台頭によって第二次世界大戦の背景を理解し、平和な世界を築くのに何が必要かを話し合い、解決策や世界平和について探求する。	6	第 3 回定期試験
		小計	31	
12	4 現代世界の諸問題と国際連合の役割 ①東西冷戦と国際連合の成立	・ 東西冷戦と国際連合の成立について歴史的な流れを理解し、国際連合の役割を探求する。	3	
	②第三世界の成立と現代の諸問題について	・ 東西冷戦の一方で、いわゆる第三世界が成立する。これらの国々が東西冷戦の影響によってどのような諸問題を発生するに至ったか歴史的な過程を理解し、探求する。	4	
	③欧米諸国の成立と日本について	・ 欧米諸国と日本のつながりと、国際平和を追求するため日本人として何が必要かを考え、自分の意見が持てるように探求する。	4	まとめのテスト
1	5 世界史の振り返り ①世界史入門 ②古代から中世の時代 ③近世から近代の時代 ④現代の時代 ⑤テーマ別世界史	・ 論述問題を含めた入試問題を活用して基本的な知識の定着と歴史的思考力の育成を図る。 ・ テーマ別の歴史を取り扱い、主題学習を行う。	2 1 1 1 1	
		小計	17	
		合計	48	

科目名	必修／選択	単位数	学 年	学科・類型
日本史B	必修	2	3	普通科 文型

科目の概要	律令国家の成立は日本が唐を模倣し、アジアにおける先進国を目指した意思表示であった。一方で律令国家の誕生は天皇の周辺にいた豪族を官僚化することになり、そうして生まれた貴族は天皇家との結びつきを強めるようになる。その中で藤原氏が諸貴族を排斥することで栄華を極める。貴族中心の国家形成が進む反面、地方の混乱は武士の反乱となって現れ、その影響は源平の台頭によって日本の国家体制を大きく変貌させた。天皇家・摂関家・武家の三者の理想・思惑がそれぞれ交錯する中で、徳川家康が260年に及ぶ武家政権を樹立し、平和な日本が出現する。それぞれの時代で、国家指導者がどのような視点で国家形成を考え、人々はどのように暮らしたのか。また、近代国家成立にどうつながるのか。それらを考察する中で、現代に生きる日本人としてどうあるべきかを考える。日本史を学ぶ中で自らの「生き方」を深く考え、「生きる力」「情熱」「信念」など、将来の自分像を歴史に照らし合わせて考察する。
-------	---

教材名	教科書	詳説 日本史B (山川出版社)
	副教材	最新日本史図表 新版 (第一学習社)・ゼミナール日本史 (浜島書店)

学習到達目標	①基礎・基本の知識の習得をはかり、古代日本や中世・近代日本の成立について、既習事項である近現代日本にどうつながるのかを意識しながらアジアの中の日本を理解できるようにする。 ②古代から近代までの歴史的事象の因果関係を正確に把握し、表現できるようにする。 ③資料や史料から近現代日本の特徴を読み取ることをできるようにする。 ④センター試験を始め、大学入試に向けた実力を身につける。
--------	--

学習方法	①復習と日々の授業時間を大切にしてください。教科書の太字だけを覚えるのではなく、教科書を読み込んでください。そうすることで歴史の因果関係や政治・経済・外交のつながりを把握できるようになります。歴史的な事件や出来事に関する「なぜ」「どうして」「どのように」「その結果どうなったか」などの疑問を大切にしてください。 ②板書・プリントだけではなく、資料集・史料集を積極的に活用し、まとめるなどの作業をしましょう。重要語句だけではイメージできないことがたくさんあります。 ③まとめる学習の一環として「ゼミナール日本史」を活用してください(考査ごとに集めます)。 ④日常の提出物を必ず出しましょう。評価だけではなく、力の付き方が変わってきます。
------	---

評価の方法 及び 評価基準 と 評価規準 ルーブリック		関心・意欲・態度	歴史的思考・表現	資料を読み取る技能	知識・理解
	評価方法	- 課題の提出状況 - 授業に対する姿勢など 学習到達目標④	- 定期試験 - 課題 - 授業に対する姿勢など 学習到達目標①、②	- ワークシート - 授業に対する姿勢 - 定期試験 など 学習到達目標③	- 定期試験 - 課題 - 小テストなど 学習到達目標①
	S	日頃から歴史的視点から物事を考えることができ、自ら進んで学びを深めることができる。	歴史的な思考をしながら論理的に考察し、他の人にわかりやすく表現することができる。	史料や資料から歴史的背景や状況を読み取り、その内容を正しく記述すると共に発展的な内容を考察し、伝えることができる。	歴史用語について、その時代背景や歴史的意義について正しく理解している。
	A	歴史的に物事を考えることに強い関心を持ち、意欲的に授業に参加することができる。	歴史的思考を身に付け、論理的に考察し、自らの考えを表現することができる。	史料や資料から歴史的背景や状況を読み取り、その内容を正しく記述することができる。	基本的な歴史用語について、その時代背景や歴史的意義について理解している。
	B	与えられた課題等に取り組む中で歴史的な思考に関心をもつことができる。	歴史的思考を身に付け、論理的に考察することができる。	史料や資料から歴史的背景や状況を読み取ることができる。	基本的な歴史用語の内容を把握している。
	C	歴史的・論理的思考の重要性が認識できず、課題等の取り組みも甘い。	自らの考えを歴史的思考に基づいて論理的にまとめることができない。	史料や資料から歴史的背景や状況を読み取ることができない。	基本的な歴史用語の内容を理解できていない。

年 間 学 習 計 画

月	章 ・ 単元	学習内容 ・ 目標等	時数	備考 (テスト・講習等)
4	第2章 律令国家の形成	3 平城京の時代	12	課題テスト 小テスト ワークシート 記述課題 マインドマップ 第1回定期考査
5		4 天平文化	1	
		5 平安王朝の形成	4	
6	第3章 貴族政治と国風文化	1 摂関政治	3	
		2 国風文化	2	
		3 荘園と武士	3	
7	第4章 中世社会の成立	1 院政と平氏の台頭	9	小テスト ワークシート 記述課題 マインドマップ
8		2 鎌倉幕府の成立	4	
9		3 武士の社会	5	
10		4 蒙古襲来と幕府の衰退	5	
		5 鎌倉文化	4	
11	第5章 武家社会の成長	1 室町幕府の成立	7	第2回定期考査
		2 幕府の衰退と庶民の台頭	9	

科目名	必修／選択	単位数	学 年	学科・類型
探求日本史	必修	2	3	普通科 文型

科目の概要	歴史的な出来事や政策から、その後の時代形成にどのように影響を与えたのかを深く考察する。その時々の人物が何を考えて行動したのか、自分だったらどうするかという視点から歴史を概観する。国家指導者がどのような視点で国家形成を考え、人々はどのように暮らしたのか。それらを考察する中で、現代に生きる日本人としてどうあるべきかを考える。日本史を学ぶ中で自らの「生き方」を深く考え、その道を切り開くために「生きる力」「情熱」「信念」など、将来の自分像を歴史に照らし合わせて考察する。
-------	---

教材名	教科書	
	副教材	・最新日本史図表 新版（第一学習社）・ゼミナール日本史（浜島書店） ※その他、日本史Bの教科書「詳説日本史B（山川出版社）」なども、適宜活用。

学習到達目標	①歴史の転換点で起こった出来事について時代背景や人物を中心に深く考察・理解する。 ②さまざまな歴史的事象の因果関係を正確に把握し、自ら探求し、表現できるようにする。 ③資料や史料から歴史的な事象について多角的に考察できるようにする。 ④センター試験を始め、大学入試に向けた実力を身に付ける。
--------	--

学習方法	①復習を重視してください。また、1時間1時間の授業を大切にしてください。文章の一行一行を注視して、論理的に歴史が展開しているのかどうか、批判的に思考しながら歴史の因果関係や政治・経済・外交のつながりを把握しましょう。歴史的な事件や出来事に関する「なぜ」「どうして」「どのように」「その結果どうなったか」などの疑問を大切にしてください。 ②板書・プリントだけではなく、資料集を積極的に活用し、まとめるなどの作業をしましょう。重要語句だけではイメージできないことがたくさんあります。 ③日常の提出物を必ず出しましょう。評価だけではなく、力の付き方が変わってきます。
------	--

評価の方法 及び 評価基準 と 評価規準 ルーブリック		関心・意欲・態度	歴史的思考・表現	資料を読み取る技能	知識・理解
	評価方法	・課題の提出状況 ・授業に対する姿勢 など 学習到達目標④	・定期試験 ・課題 ・授業に対する姿勢など 学習到達目標①、②	・ワークシート ・授業に対する姿勢 ・定期試験 など 学習到達目標③	・定期試験 ・課題 ・小テストなど 学習到達目標①
	S	日頃から歴史的視点から物事を考えることができ、自ら進んで学びを深めることができる。	歴史的な思考をしながら論理的に考察し、他の人にわかりやすく表現することができる。	史料や資料から歴史的背景や状況を読み取り、その内容を正しく記述すると共に発展的な内容を考察し、伝えることができる。	歴史用語について、その時代背景や歴史的意義について正しく理解している。
	A	歴史的に物事を考えることに強い関心を持ち、意欲的に授業に参加することができる。	歴史的思考を身に付け、論理的に考察し、自らの考えを表現することができる。	史料や資料から歴史的背景や状況を読み取り、その内容を正しく記述することができる。	基本的な歴史用語について、その時代背景や歴史的意義について理解している。
	B	与えられた課題等に取り組む中で歴史的な思考に関心をもつことができる。	歴史的思考を身に付け、論理的に考察することができる。	史料や資料から歴史的背景や状況を読み取ることができる。	基本的な歴史用語の内容を把握している。
	C	歴史的・論理的思考の重要性が認識できず、課題等の取り組みも甘い	自らの考えを歴史的思考に基づいて論理的にまとめることができない。	史料や資料から歴史的背景や状況を読み取ることができない。	基本的な歴史用語の内容を理解できていない。

年間学習計画

科目名 [探究日本史]

月	学習項目	主な内容	時数	備考 (テスト・講習等)
10	1. 執権として権力を握った北条氏	・ 北条氏の権力掌握過程 ・ 北条氏は将軍になれないのか	2 2	
	2. 朝幕関係の変化～承久の乱から考える～	・ 鳥羽上皇と執権の関係 ・ 朝幕関係は逆転したか	2 2	
	3. 南北朝の争いはなぜ長期化したか	・ 戦争の長期化に必要なこと ・ 南北朝合一後の元南朝	2 2	
	4. 日明貿易はなぜ義満が主導したか	・ 日本国王は義満限定だったか ・ 日明貿易の主導権とは	2 2	
11	5. 応仁の乱から幕府の失政・特徴をみる	・ 将軍になれない足利氏とは ・ 血筋と能力、どちらが大切か	2 2	
	6. 守護大名と戦国大名、その違い	・ 戦国大名の領国経営術	4	
	7. 信長・秀吉・家康のバトンリレー	・ 天下布武の真意 ・ 秀吉が近代の基礎を築いた ・ 家康はなぜ我慢強いのか	2 3 2	
	8. 生類憐みの令と忠臣蔵	・ 綱吉が目指した理想の政治	4	第3回定期考査
12	9. 元禄文化	・ 町人文化の開花	2	
	10. 支配から撫民へ	・ 江戸幕府の農民政策の変化	3	
	11. 享保の改革を考える	・ 吉宗の操ろうとしたものは	3	
	12. 寛政の改革を考える	・ 白河藩での成功がもたらした もの	3	
	13. 田沼政治を考える	・ 田沼意次の先見性	3	
1	14. 天保の改革を考える	・ 水野の失政か、時代の流れか	3	
	15. 宝暦・天明期の文化	・ 田沼時代の影響とは	2	
	16. 化政文化	・ 大御所時代の影響とは	2	
	17. 井伊直弼の判断は正しかったのか	・ 日本を取りまく海外情勢 ・ 井伊直弼は何を考えたか	2 2	

計60時間

科目名	必修／選択	単位数	学 年	学科・類型
倫理	必修	3	3	文型

科目の概要	「人間は考える葦である」 これはフランスの科学者・哲学者パスカルのことばです。みなさんも一度は聞いたことがあるのではないのでしょうか。またフランクルというユダヤ系精神医学者は、アウシュビッツ収容所での極限状況の中で「人間とは、自分が生きることの意味を求める精神的な存在である」と述べています。彼らをはじめとして、古今東西の先人たちは「人間とは何なのだろう？」と考え、自問自答し、「生きる」ことの意味を問いつづけてきました。「倫理」という科目は、そのような先人たちの考えにふれ、共感あるいは疑問を持ち、人間について、人生について、生き方について、思いをめぐらせることができる科目です。高校3年生という多感な時期のみなさんに、きっと何らかの示唆をあたえてくれる科目だと思います。				
	教科書	改訂版 高等学校 倫理（数研出版）			
教材名	副教材	アプローチ倫理資料（東京法令出版）			
学習到達目標	①先哲の倫理思想にふれ、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深め、人間尊重の精神を養う。 ②基礎・基本の着実な定着をはかり、上級学校受験のための学力を養う。				
学習方法	① 取り上げられている人物が述べている思想について概略をとらえる。細かな用語の意味にとらわれるのではなく、一度関連する単元を通して教科書・資料集を読んでみる。 ② ①でおおまかなことを理解した後で、基本的な語句・言葉について理解を深める。 ③ センター試験に向けた演習をする。授業や添削で問題を配布しますが、それとは別に各自で3～5年分は何度か解いてみることをお奨めします。自習室にある赤本を活用しよう。				
評価の方法 及び 評価基準 と 評価規準 ルーブリック	評価 方法	関心・意欲・態度	歴史的思考・表現	資料を読み取る技能	知識・理解
		・課題の提出状況 ・授業に対する姿勢 学習到達目標④	・定期試験 ・課題 ・授業に対する姿勢 学習到達目標①②	・ワークシート ・授業に対する姿勢 ・定期試験など 学習到達目標③	・定期試験 ・課題 ・小テストなど 学習到達目標①
		S 日頃から倫理的内容に興味を持ち、多角的に物事を考えることができ自ら進んで学びを深めることができる。	倫理的な思考をしながら論理的に考察し、他の人にわかりやすく表現することができる。	図表や資料から倫理的背景や状況を読み取り、その内容を正しく記述すると共に発展的な内容を考察し、伝えることができる。	倫理的用語について、その時代背景や歴史的意義について正しく理解している。
		A 倫理的な問題に関心をもち、意欲的に授業に参加することができる。	倫理的な思考を身につけ論理的に思考し、自らの考えを表現することができる。	図表や資料から倫理的背景や状況を読み取り、その内容を正しく記述することができる。	基本的な倫理用語について、その時代背景や歴史的意義について理解している。
		B 与えられた課題等に取り組む中で倫理的な思考に関心を持つことができる。	倫理的な思考を身につけ論理的に考察することができる。	図表や資料から倫理的背景や状況を読み取ることができる。	基本的な倫理用語の内容を把握している。
		C 倫理的な問題に対する基本用語などを理解できず課題等の取り組みも甘い。	自らの考えを倫理的思考に基づいて論理的にまとめることができない。	図表や資料から倫理的背景や状況を読み取ることができない。	基本的な倫理用語の内容を理解できていない。

年 間 学 習 計 画

月	章 ・ 単元	学習内容 ・ 目標等	時数	備考 (テスト・講習等)
4	第1編 第1章 青年期の課題と自己形成 第1節 ① 人間とは何か ② 青年期の意義と課題 ③ 自己形成と自己の生き方 第2章 人間としての自覚 第1節 (思想の源流) ① 神話から哲学へ ② ソクラテス・プラトン・アリストテレス ③ ヘレニズム思想	授業のガイダンス、さまざまな人間の定義 青年期について自らを省みる機会とする 防衛機制の類型、パーソナリティの形成 自然哲学者、ソフィストの出現 ギリシア三大哲学者、西洋哲学の源泉 ホリスの哲学からコスモポリタニズムへ経済とは何か 経済の歴史について	2 1 1 2 1 1	
5	④ 古代ユダヤ教▼ ⑤ イエスの教え▼ ⑥ キリスト教の成立と発展▼ ⑦ イスラーム▼ ⑧ 古代インドの社会と思想▼ ⑨ ブッダの思想▼ ⑩ 仏教の展開▼ ⑪ 孔子と儒家の思想	「出エジプト」、ヘブライズムとシオニズム▼ 神の愛と隣人愛▼ 教父哲学からスコラ哲学へ▼ クラウゼ (コラソ) とムスリム、六信五行▼ パラメニズムと4つのヴァルナ▼ 四法印・四諦・八正道▼ 上座部仏教と大乘仏教、阿羅漢と菩薩	1 1 2 1 1 1 1 1 1	
6	⑫ 経学の成立と発展▼ ⑬ 道家の思想▼ 2編 第2章 現代と倫理▼ 第1節 (西洋近代思想) ▼ ① ルネサンス▼ ② ルター、カルヴァン▼ ③ ベーコン ▼ ④ デカルト▼ ⑤ モラリスト▼	諸子百家、孔子、孟子、荀子▼ 儒学の発展 (朱子学・陽明学) ▼ 老子、荘子▼▼ 「人間の尊厳について」、普遍人▼ 聖書中心主義、プロテスタンティズムと資本主義▼ 4つの偶像 (イデオロギ) と帰納法▼ われ思うゆえにわれあり～理性への信頼▼ われ何をか知る～理性への省察	2 1 1 1 2 2 1	第1回定期考査
7	⑥ カント▼ ⑦ ヘーゲル▼ ⑧ キルケゴール、ニーチェ	理性の「批判」～純粹理性と実践理性▼ 弁証法と人倫 ～理性の狡知▼ 「主体的真理」と「神は死んだ」	3 2 3	
8	⑨ ハイデガー、ヤスパース、サルトル ▼ 第2節 (民主社会の倫理) ▼ ① 自己	限界状況、時間と実存、アンガージュマン▼ ホッブズ、ロック、ルソー、啓蒙主義	2 2	

	然権思想と社会契約		2	
9	② 功利主義 (ベンサムと J.S.ミル) ▼ ③ 社会主義 (マルクスと非マルクス主義) ▼第3節 (科学と人間) ▼ ① 科学 と人間～近代科学の成立 ▼ ② プラグマティズム ～米の合理主義	量的功利主義と質的功利主義▼ 空想か ら科学へ、フェビアン協会▼▼ コペルニクス、ケプ ラー、ガリレイ、ニュートン▼ パーシ、ジェームズ、デ ューイ	2 2 1 2	第2回定期考査
10	③ 現代と科学技術▼ ④ 現代 のヒューマンイズム▼ ⑤ 現代思想の流れ ▼第1編 第3章 国際社会に生きる 日本人としての自覚▼ ① 日本の 風土と社会▼ ② 仏教の受容▼ ③ 仏教と日本文化▼ ④ 儒学の 受容と展開 ⑤ 国学の 誕生	科学技術の功罪、パラダイムの転換▼ シュガ アイヴァー、ガンダー、キング、マザーテレサ▼ 構造 主義、フランクフルト学派、精神分析学等▼▼ 和辻哲郎、神話にみる日本人の精神▼ 飛 鳥～奈良～平安～鎌倉の仏教▼ 日本の伝 統文化と仏教▼ 朱子学、陽明学、古学の 発達▼ 賀茂真淵、本居宣長、平田篤胤	1 1 2 1 2 1 2 2	
11	⑤ 国学の誕生 ▼ ⑥ 庶民の思想と幕末の思想▼ ⑦ 近 代日本の思想① ▼ ⑧ 近代日本 の思想②▼ 第3章 現代の諸課題 と倫理▼ ① 生命倫理 (バイオエシッ クス) ▼ ② 現代の環境問題▼ ③ 現代の家族の在り方▼ ④ 情報化 社会の功罪▼ ⑤ 異文化理解▼ ⑥ 人類の福祉	▼ 庶民文芸、石田梅岩、安藤昌益、蘭学 ▼ 福沢諭吉、中江兆民ら▼ 内村鑑三、新 渡戸稲造、夏目漱石ら▼▼ バイオ技術と倫 理的課題▼ 宇宙船地球号、カーン『沈黙の 春』▼ DV (ドメスティックバイオレンス)、パラ トシノグール▼ 個人情報、セキュリティ問題など▼ エ スノセントリズムの克服▼ ロールズ、社会契約論の 現代化	2 2 2 2	
12	特別授業の開始	「出エジプト」、ヘブライズムとシオニズム▼ 神の 愛と隣人愛▼ 教父哲学からスコラ哲学へ ▼ クラウゼン (コーラン) とムスリム、六信五行▼ パ ラモン教と4つのヴァルナ▼ 四法印・四諦・ 八正道▼ 上座部仏教と大乘仏教、阿羅漢 と菩薩	3 3 3 3	第3回定期考査

科 目 名	必修／選択	単位数	学 年	学科・類型
地理研究	選択	2	3 年	理数科・普通科理型

科目の概要	科学技術に支えられた我々先進国で生きる人間たちの生活や、科学技術の恩恵を十分に得られていない発展途上国の人々の存在や生活を知ることが、現代社会の抱える問題を理解するだけではなく、過去の人間たちがどのようにして今の文明を築きあげてきたのか考えるときに大きな示唆となるものでしょう。 また、どのような高度な文明も「地球」という資源に寄って立つものであることはいまでもありません。成立した文明社会の背後には文化（言語や宗教、人々の行動様式など）があり、それを育んだ自然環境が必ず存在します。 以上の2つの視点から、人間生活の舞台としての地球、人類の歴史の舞台としての地球を考えます。
-------	---

教材名	教科書	
	副教材	新編 地理資料 2015(とうほう), 地理統計要覧 2015 年版(二宮書店) ※その他、地理Aの教科書や地図帳なども適宜活用します

学習到達目標	現代の産業や社会について、その成立や発展をその背後にある地理的事象との関わりから理解を深めます。地名や資源の存在を憶えるだけではなく、様々な事象と事象との因果関係を探ることを通して、知識の一般化に努め、上級学校受験に必要な応用力を身につけます。
--------	---

学習方法	やはり復習が一番大切になります。単位数が少ないために、小テスト等で学力が向上しているかをはかることはなかなかできないと思われます。しかし、小テストがあるなしに関係なく、復習して下さい。 地理的な視野を広げるためには、TVなどで頭の中でイメージが固まっていることが望ましい。いろいろな情報を通じて視野を広げましょう。
------	---

評価の観点及び方法	観 点	内 容	評価対象	得点配分
	関心・意欲・態度	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追求し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする	- 課題の提出状況 - 授業に対する姿勢など	20 /100
	思考・判断・表現	現代社会の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察したりし、国際社会の変化を踏まえてその過程や結果を適切に表現している	- 定期考査 - 授業に対する姿勢など	25 /100
	資料活用の技能	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	- 定期考査 - 課題の取り組み内容など	25 /100
	知識・理解	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追求の方法を理解し、その知識を身につけている。	- 定期考査 - 小テスト	30 /100

年 間 学 習 計 画

月	章 ・ 単元	学習内容・目標等	時数	備考(テスト・講習等)
4 5	地球上の位置と国家 人々の生活と文化	[調べ学習などを通して深く学ぶ] 国家の領域と国境 生活と宗教・言語のかかわり 生活・文化のグローバル化	1 5	第1回定期考査
6	世界の人口・食糧問題	[グループワークなどを通して深く学ぶ] 人口増加と少子化・高齢化 地域で異なる人口問題 世界の食糧問題	5	
7 8	グローバル化が進む世界	[映像を見るなどより深く学ぶ] 世界を結ぶ交通 世界を一つに結ぶ通信	1 5	
9 10	人々の生活と産業	[産業についてより深く学ぶ] 工業の特色と立地条件 世界と日本の工業地域 農業の特色と立地条件 世界と日本の農業	1 5	第2回定期考査 第3回定期考査
11 12 1	世界の都市・居住問題	[発表やディスカッション等を行うなど 探求する] 都市への人口集中と諸問題 地域で異なる都市・居住問題	1 0	

科目名	必修／選択	単位数	学 年	学科・類型
時事問題研究	選択	2	3	普通科（理系）

科目の概要	今年の政治・経済では経済分野を中心に学ぶ。具体的には経済思想や市場機構、財政や金融、グローバル化する現代社会や国際経済について理解を深める。経済は、自分たちの生活に密着した科目であり、新聞やテレビのニュースに触れる中で、自分の意見を持ったり疑問を持ったりすることが学びを深化させる。こんにちでは、情報化の進展にあわせて、モノ・人・資本が国境を越えて激しく移動し、国際社会は経済的にもかつてみられないほど相互作用を持つ時代になった。政治・経済は大学へ進学し社会に出て世の中を理解するベースとなるものである。今年1年、社会に出て行く基礎・基本を学ぶという気持ちで授業を受け、新聞・テレビのニュースを批判的に検討できる程度の力を身に付けて欲しい。
-------	---

教材名	教科書	高等学校 現代社会 （第一学習社）
	副教材	最新 政治・経済資料集 2・014 （第一学習社）

学習到達目標	① 経済的な諸原理やその仕組みについて、基本的な理解を深める。 ② 日本経済や国際経済についてその動向を学んだ上で、現代社会が抱える経済的な諸課題について主体的に考察し、またその解決策を自ら考えることができるようにする。
--------	--

学習方法	① 教科書に出てくる基本的語句を理解する。 ② 新聞やニュースなど身近な問題に興味や関心を持つようにする。 ③ 現代社会の諸問題等について、自ら調べたり考えたりする習慣をつける。 ④ 定期考査などで知識・理解の定着を図る。
------	---

評価の方法 及び 評価基準 と 評価規準 ルーブリック		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料の活用技能	知識・理解
	評価方法	・発問に対する解答内容 ・課題の提出状況 ・授業に対する姿勢	・授業での発言内容 ・定期試験 ・課題	・発問に対する解答内容 ・定期試験 ・課題	・授業での発言内容 ・定期試験 ・課題
	S	現代の経済に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進について客観的に考察しようとしている。	現代の経済に関わる事柄から課題を見だし、その本質や特質、望ましい解決の在り方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	現代の経済に関わる諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。	現代の経済に関する基本的な事柄や、本質、特質及び動向を捉える基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けている。
	A	現代の経済に対する関心を高め、意欲的に課題を追究している。	現代の経済に関わる事柄から課題を見だし、その本質や特質、望ましい解決の在り方について広い視野に立って多面的・多角的に考察している。	現代の経済に関わる諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択している。	現代の経済に関する基本的な事柄や、本質、特質及び基本的概念や理論を理解し、その知識を身に付けている。
	B	与えられた課題等に取り組む中で経済的な課題対して関心を持つことができる。	現代の経済に関わる事柄から課題を見だし、その本質や特質、望ましい解決の在り方について考察している。	現代の経済に関わる諸資料を様々なメディアを通して収集している。	現代の経済に関する基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。
	C	経済的な課題の重要性が認識できず、授業等への関心や取り組みも甘い。	現代の経済に関わる事柄から課題を見だすことができない。	現代の経済に関わる諸資料を様々なメディアを通して収集していない。	現代の経済に関する基本的な事柄を理解していない。

年 間 学 習 計 画

月	章 ・ 単元	学習内容・目標等	時数	備考 (テスト・講習等)
4	第5章 現代の経済社会と私たちの生活		6	
	第1節 経済社会と経済体制	資本主義経済体制の成立と発展		
	第2節 現代の企業	経済主体と現代の企業		
5	第3節 市場経済のしくみ	市場機構と市場の失敗	7	
	第4節 経済成長と景気変動	国民所得計算、経済成長と景気変動		
	第5節 政府の経済的役割と租税の意義	財政のしくみ		
6	第6節 金融機関のはたらき	金融のしくみ	7	第1回定期試験
7	第7節 戦後の日本経済の動き	日本経済の発展と現在の動向	5	
	第8節 産業構造の変化	日本経済の変遷と産業構造		
8	第9節 雇用と労働問題	労働基本権と労働問題	4	夏季講習
	第10節 公害の防止と環境保全	公害問題と環境問題		
	第11節 消費者保護と契約	現代の消費者問題		
9	第12節 社会保障と国民福祉	社会保険・公的扶助・社会福祉・公衆衛生	5	第2回定期試験 平常講習
	第6章 国際経済の動向と日本の役割			
10	第1節 国際経済のしくみと貿易の拡大	貿易理論と戦後自由貿易体制	9	
	第2節 国際経済の動向	国際経済と国際金融		
11	第3節 発展途上国の経済と南北問題	国際経済の諸問題	6	
12	第4節 国際協調と日本の役割	現代の国際経済と日本	4	第3回定期試験
1			6	